

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成27年5月12日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス事務局棟4階)

発 表 事 項

1. ペルー共和国文化省と山形大学の特別協定書の締結について (4/24通知済)
2. 教授の採用について (4/1以降)
3. 「地方創生」への取り組み支援について
4. 平成27年度「山形大学 YU Do Best 奨学金」奨学生について
5. 「第6期クラゲマイスター養成講座(初級)」について

お 知 ら せ

1. 学士院 第62回公開講演会のお知らせ
2. 「社会人育成山形講座」平成26年度報告書を作成
3. 人文学部公開講座のお知らせ
4. 日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンス)平成27年度第1回・採択結果

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時:平成27年6月2日(火)11:00～11:30

場 所:事務局第二会議室(小白川キャンパス事務局棟4階)

平成27年4月24日
山形大学

ペルー共和国文化省と山形大学の特別協定書の締結について

山形大学は4月23日（木）、ペルー共和国リマ市内において同国文化省とナスカの地上絵に関する学術協力と保護等を目的とする「特別協定書」を締結しました。

「ペルー共和国文化省と山形大学の機関間の協力に関する特別協定書」締結の概要は以下の通りです。

【背景】

世界遺産ナスカ地上絵研究は、2004年、山形大学人文学部の坂井正人教授を中心とする学際的なプロジェクト研究として出発し、新しい地上絵の相次ぐ発見と地道な現地での研究の積み重ねによって、本学が誇る世界的な研究に成長しました。この研究はペルー共和国文化省によって高く評価され、この度、山形大学とペルー共和国文化省の間で、学術協力と地上絵の保護に関する特別協定書を締結しました。

【調印式概要】

日 時：平成27年4月23日(木) 16:00～17:00（現地時間）

場 所：ペルー共和国 国立大劇場貴賓室（Sala VIP del Gran Teatro Nacional）

出席者：ペルー共和国文化省

大臣 ディアナ・アルバレス・カレデロン・ガヨ

副大臣 ルイス・ハイメ・カスティージョ

事務局長 マリオ・クリストフェル・ワパヤ・ナバ

国立大学法人山形大学

学長 小山 清人

ナスカ研究所長（人文学部長） 北川 忠明

ナスカ研究所副所長（人文学部教授）坂井 正人

【協定の概要】

ナスカの地上絵に関する学術協力、保護活動などを目的として、山形大学人文学部ナスカ研究所が作成したナスカの地上絵に関するデジタル情報をペルー文化省と共有するとともに、地上絵の保護・監視活動を支援する。

【関係者のコメント】

アルバレス・カレデロン大臣

「ナスカの地上絵に関する山形大学との協定によって、地上絵の保護活動の進展を期待する。」

小山学長

「地上絵が現在おかれた危機的な状況において、地上絵の保護活動に山形大学が寄与できることを喜ばしく思う

【今後の活動・研究予定】

山形大学がこれまで集めた地上絵に関する情報を、保護に役立ててもらうために、ペルー文化省に提供する。また、2014年度の調査で発見したラクダ科動物の地上絵群が分布している地区を破壊から守り、保護地区に指定するために協力する。

【お問合せ先】

[研究に関すること]

人文学部教授 坂井正人

電話：023-628-4785

Mail:sakai@human.kj.yamagata-u.ac.jp

[調印に関すること]

総務部総務課広報室 樋口

電話：023-628-4008

携帯：090-7332-7472

Mail: koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



あいさつする小山学長



協定書にサインするアルバレス・カデーロン大臣と小山学長



協定書を披露するアルバレス・カテロン大臣と小山庄長



談笑するアルバレス・カテロン大臣と小山庄長

平成27年5月12日
山形大学

教授の採用について（4/1以降）

山形大学では、平成27年4月1日以降5名の教授を採用しました。

本学では、本年4月1日の山形大学学術研究院規程の施行により、全ての教員が学術研究院に所属することになりました。これに伴い、各教員は各学部・各研究科等における教育課程を担当する教員として当該学部・研究科等に配置されます。

については、広く国民の皆さまに知っていただくため、今後、役員会です承した教授採用人事について直後の学長定例記者会見でお知らせいたします。

採用年月日	氏名	備考(専門分野等)
4月1日	あさの しげる 浅野 茂	Institutional Research(IR)
4月1日	うらかわしゅうじ 浦川修司	畜産学
4月1日	おぐらやすのり 小倉泰憲	キャリア教育
4月1日	ふじたようじ 藤田洋治	古典文学、国語教育
5月1日	そのだゆきひこ 園田順彦	脳神経外科学

(お問合せ先)
山形大学総務部人事課 小野
電話 023-628-4023

平成27年5月12日
山形大学

「地方創生」への取り組み支援について

山形大学は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」による各自治体の「地方版総合戦略」の策定やその取り組み等を支援いたします。

山形大学は、「地方創生」への取り組みを支援するために、問い合わせ窓口を設置し、体制強化することといたしました。

政府の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に始まり、山形県においては、「山形県総合戦略推進本部」が設置され、これまで以上に、各自治体の「地方版総合戦略」の策定に向けた取り組みが加速されることとなり、本学もその取り組みについて、支援することといたしました。

本学には、各学部のほかに、「東北創生研究所」などがあり、多種多様な対応が可能となっております。今後は、「地方版総合戦略」の策定のみならず、その後の計画実施においても、連携した支援を行うことができると考えております。

（主な支援等）

- ① 「地方版総合戦略」の策定等に関する相談や委員派遣
- ② 「地方版総合戦略」の取組み実施への連携支援
- ③ 「地方創生」についての講演会等への講師派遣

（問い合わせ窓口）

山形大学エンロールメント・マネジメント部社会連携課
電話 023-628-4843

【支援事例】

平成27年6月から尾花沢市・大石田町へ「地方創生」に関する助言・相談受付等を行い、地域課題への適切な対応及び地域の活性化に向けた支援を行います。

なお、これに伴い、尾花沢市・大石田町・各市町社会福祉協議会・山形県村山総合支庁と「地方創生」に関して、覚書の締結式を次のとおり行います。

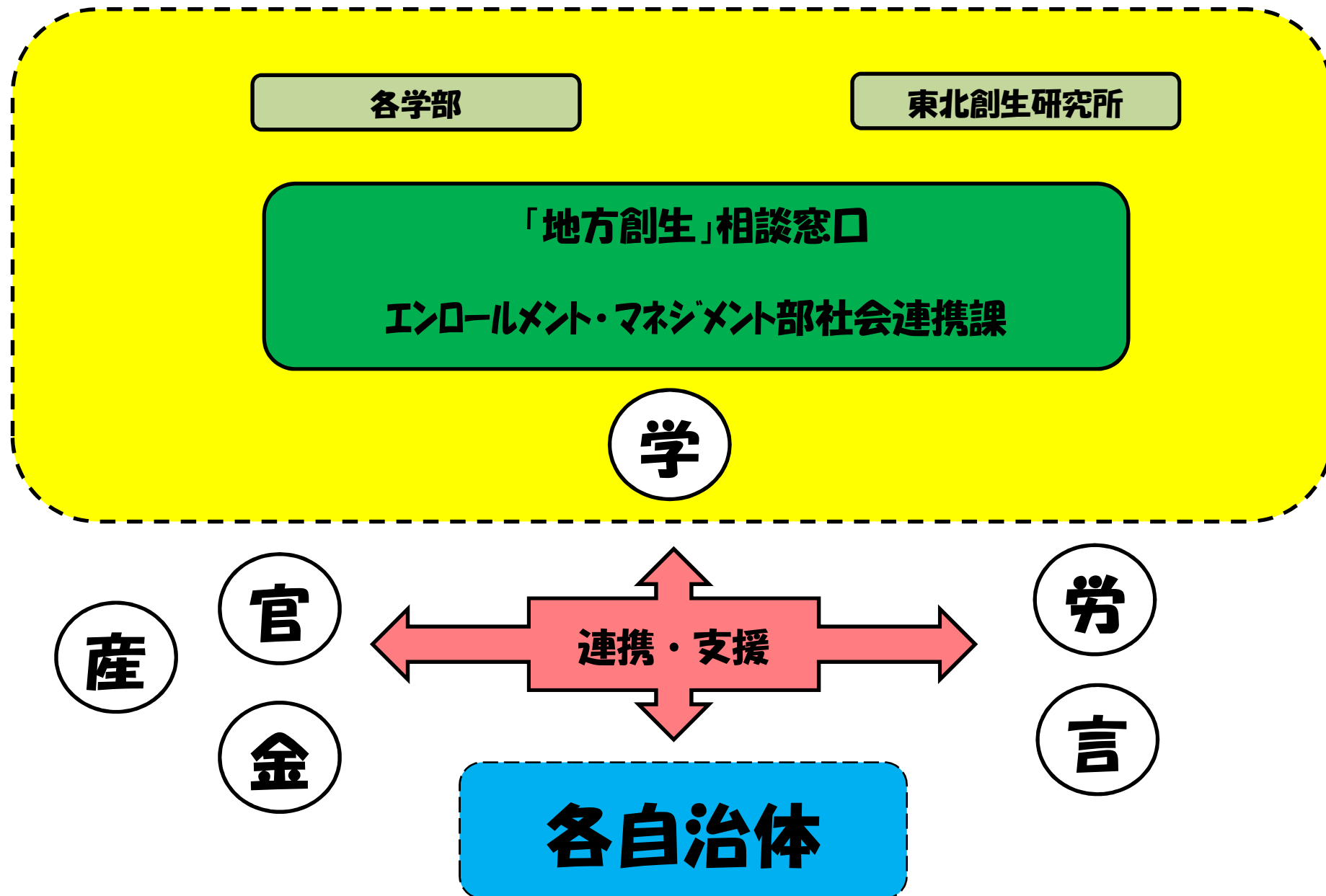
日時：平成27年5月28日（木）14：00－14：40

場所：山形県村山総合支庁（山形市鉄砲町）2F 応接室

（お問合せ先）

山形大学EM部社会連携課
電話 023-628-4843

山形大学の「地方創生」への取組み支援体制



平成27年5月12日
山形大学

平成27年度「山形大学 YU Do Best 奨学金」奨学生について

4月6日（月）に挙行した入学式において、10名の学生に平成27年度「山形大学 YU Do Best 奨学金」の奨学生証を交付しました。

（「山形大学 YU Do Best 奨学金」とは）

「学生目線による大学創り」を進める本学では、平成20年度から「山形大学 YU Do Best 奨学金」という独自制度を設け、学部3年生（医学部医学科は学部5年生）のうち、成績、人物ともに優秀で、奨学生に相応しい学生を毎年10名程度選考し、奨学金を支給しています（月額30,000円、支給期間2年間）。



今年度も10名の学生を選考し、4月6日（月）に挙行した入学式で奨学生証を交付しました。

なお、本奨学金の交付を受けた卒業生は約70名で、大学院への進学（18名）のほか、官公庁（8名）、病院（4名）など、県内外で活躍しています。

（お問合せ先）
小白川キャンパス事務部学生課長
石山博子
電話：023-628-4130 FAX：023-628-4704
email：gskacho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成27年5月12日
山形大学

「第6期クラゲマイスター養成講座（初級）」について

6月27日（土）、28日（日）に加茂水族館において第6期クラゲマイスター養成講座（初級）を開講します。

本学の「やまがた『科学の花咲く』プロジェクト」では、鶴岡市立加茂水族館との共催で、地域や家庭でクラゲの不思議や面白さ、科学技術を伝える講師や補助者を養成するための指導者（クラゲマイスター）養成講座を下記の通り開催します。

【1日目】

日時：平成27年6月27日（土） 9：00～16：00

場所：鶴岡市立加茂水族館（鶴岡市今泉大久保656）

内容：クラゲ基礎講座、医師によるクラゲ安全講座、加茂水族館の取組、海でのクラゲ採取など

【2日目】

日時：平成27年6月28日（日） 9：00～16：00

場所：鶴岡市立加茂水族館（鶴岡市今泉大久保656）

内容：パラオのクラゲ、クラゲの筋細胞と刺胞、光るクラゲの秘密(山形大学理学部教員による)など

【実験指導実施講座】

イベント準備や来場者への説明などの実践(8月9日(日)のイオンモール三川または9月20日(日)の日本一の芋煮会フェスティバルに参加する)

- 受講料 無料
- 申込資格 高校生以上
- 締切 平成27年6月5日（金）
- 定員 20名（応募者多数の場合は抽選）

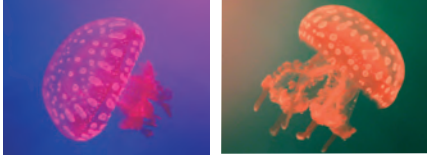
※内容、その他の詳細は別紙チラシをご覧ください。

（お問合せ先）
やまがた『科学の花咲く』プロジェクト事務局
担当：清野、伊藤、小幡
TEL・FAX：023-628-4517

第6期 クラゲマイスター 養成講座(初級)のご案内

やまがた『科学の花咲く』プロジェクトでは、科学が文化として地域社会に根付くよう県内各地域、各分野の大学、科学館、研究機関、教育関係者などの連携による科学技術理解の活動充実や活発化、サイエンス・コミュニケーター養成をすすめています。地域や家族での「科学遊び」など、身近な科学コミュニケーションの活発化をすすめ、科学への関心が低い人も興味を持ち、地域全体で、誰もが科学に触れて楽しめる環境づくりをすすめています。

やまがた『科学の花咲く』プロジェクトでは、地域や家庭でクラゲの不思議や面白さ、科学技術を伝える講師や補助者になっていただくための指導者（クラゲマイスター）養成講座を下記の通り開講します。

日時・場所	講座内容	講師
【1日目】 平成27年 6月27日(土) 9:00~16:00 鶴岡市立加茂水族館 (鶴岡市今泉字大久保656)	開講式・やまがた『科学の花咲く』プロジェクトの概要説明	清野 恵一 (コーディネーター)
	自己紹介	
	クラゲに対する安全講座 ~カギノテクラゲの刺傷被害の症例~	鶴岡市立荘内病院医師
	クラゲ学習会「クラゲってなーに？」	鶴岡市立加茂水族館
	加茂水族館のクラゲ展示の歴史	鶴岡市立加茂水族館
	安全講習・クラゲ採取 ※実際に海でクラゲを採取します	上級クラゲマイスター
【2日目】 6月28日(日) 9:00~16:00 鶴岡市立加茂水族館 (鶴岡市今泉字大久保656)	パラオのクラゲ	半澤 直人 (山形大学理学部教授)
	マイスター活動の報告等	上級クラゲマイスター
	クラゲの筋細胞と刺胞	中内 祐二 (山形大学理学部助教)
	光るクラゲの秘密	栗山 恭直 (山形大学理学部教授)
	閉会・受講者の感想・ボランティア活動等についての説明	清野 恵一 (コーディネーター)
8月9日(日) イオンモール三川 (山形県東田川郡三川大字 猪子字和田庫128-1) または 9月20日(日) 日本一の芋煮会フェスティバル (馬見ヶ崎河川敷 双月橋付近) ※いずれも9:00~16:00	実験指導実施講座 準備および実施指導 イオンモール三川、または日本一の芋煮会フェスティバルの いずれかで、指導者として実施	



- 受講料 / **無料**
- 申込方法 / 裏面受講申込書をご提出ください。
- 応募資格 / 高校生以上
- 締切 / 平成27年6月5日(金)
- 定員 / **20名** (応募者多数の場合には抽選となります)

**受講無料
定員20名**



やまがた『科学の花咲く』プロジェクト事務局

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12 山形大学SCITAセンター
 TEL・FAX (023)628-4517
 E-mail: kagaku-scita@sci.kj.yamagata-u.ac.jp
 HP: <http://mirai.scita.jp/~chiiki/> 担当: 清野・伊藤・小幡

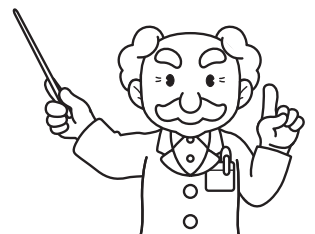
第6期

クラゲマイスター 養成講座(初級)

受講申込書

ふりがな 氏名		(所属機関)	(職名)	住所・連絡先
				〒
生年月日	性別			
大正 昭和 平成	年 月 日			TEL () - FAX () - E-mail
応募動機に関して				

※ 傷害保険（プロジェクト事務局負担）に加入しますので、所属機関・職名がない方でも住所・連絡先は必ずお書きください。



申込
締切

平成27年6月5日(金)

お
申
し
込
み
先



やまがた『科学の花咲く』プロジェクト事務局

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12 山形大学SCITAセンター

TEL・FAX : (023)628-4517

E-mail : kagaku-scita@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

HP : <http://mirai.scita.jp/~chiiki/> 担当: 清野・伊藤・小幡

平成 27 年 5 月 12 日
山 形 大 学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 日本学士院 第62回公開講演会開催のお知らせ

【開催日】平成 27 年 5 月 23 日（土）13:00-16:10

【会 場】山形大学基盤教育棟 2 号館 2 階 2 2 1 教室

【共 催】山形大学

【後 援】山形新聞社、山形放送、山形県教育委員会

【講演一】「マグナ・カルタ 800 周年に寄せて—マグナ・カルタとその神話—」

講師 こやまさだお 小山貞夫 氏（日本学士院会員・東北大学名誉教授）

【講演二】「コムギの母系を尋ねて」

講師 つねわきこういちろう 常脇恒一郎 氏（日本学士院会員・京都大学名誉教授・福井県立大学名誉教授）

2. 「社会人力育成山形講座」平成 26 年度報告書を作成

文部科学省平成 24 年度「大学間連携共同教育推進事業」採択授業「美しい山形を活用した「社会人力育成山形講座」の展開」平成 26 年度報告書を作成しました。

報告書には、平成 26 年度開講の各授業科目や会議などの活動報告の他、取り組みの評価、社会人力（社会人として求められる力）が授業でどの程度身についたかの評価も記載しています。本報告書を通して、山形講座の活動についてお読み取り頂ければ幸いです。

3. 人文学部公開講座のお知らせ

1) テーマ 「世界遺産ナスカの地上絵～学際的アプローチの成果と展開～」

2) 会場 山形大学人文学部 1 号館 3 階 3 0 1 講義室

※第 3 回のみ、人文学部 1 号館 2 階情報処理実習室にて開講します。

3) プログラム（6 月 1 日～15 日、いずれも 18:30～20:10）

4) 対象/定員 一般市民・大学生・高校生/定員 30 名

5) 受講料 一般 2,000 円 ※大学生・高校生は無料

6) 募集期間 平成 27 年 5 月 7 日（木）～5 月 27 日（水）

4. 日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンス）平成27年度第1回・採択結果

山形大学は、標記事業の平成 27 年度第 1 回募集に 3 件申請し、2 件が採択されました（事業全体では 270 件の応募中 156 件が採択）。採択内容の詳細は別紙をご覧ください。

以上

日本学士院

第六十二回公開講演会

【講演一】

「マグナ・カルタ800周年に寄せて
—マグナ・カルタとその神話—」



こやま さだお
講師 **小山 貞夫**

◆司会 佐々木 毅 会員

日本学士院会員
東北大学名誉教授

【講演二】

「コムギの母系を尋ねて」



つねわき こういちろう
講師 **常脇恒一郎**

◆司会 入谷 明 会員

日本学士院会員
京都大学名誉教授
福井県立大学名誉教授

開催日

平成 27 年 5 月 23 日 (土)

時間

開場 12 時 30 分 開演 13 時 16 時 10 分 終了
(講演は質疑を含めそれぞれ 80 分程度を予定しています)

会場

山形大学基盤教育棟 2 号館 2 階 221 教室
〒990-8560 山形市小白川町 1 丁目 4 番 1 2 号

共催

山形大学

後援

山形新聞社、山形放送、山形県教育委員会 (予定)

事前申込制・先着順 ※お申込方法は裏面をご覧ください

お問合せ先

日本学士院公開講演会係 〒110-0007 東京都台東区上野公園 7-32
TEL: 03-3822-2101 FAX: 03-3822-2105 WEB: <http://www.japan-acad.go.jp/>

入場無料

日本学士院 第62回 公開講演会

共催：山形大学

後援：山形新聞社、山形放送、
山形県教育委員会（予定）

日本学士院では、広く一般の方々を対象に、本院の活動を理解してもらうことを目的として、会員を講師に毎年春・秋2回講演会を実施しています。春季は全国各地、秋季は上野の本院会館で開催し、専門分野の異なる講師により研究成果を社会に分かりやすく発信しています。今回は山形大学の協力を得て、初めて山形で開催することになりました。

日本学士院には各分野で高い業績を挙げた研究者が多数所属しています。本院会員のお話を聞いていただけるこの機会に、たくさんの方からのお申し込みを心よりお待ちしております。

講演1

マグナ・カルタ 800 周年に寄せて —マグナ・カルタとその神話—

The 800th Anniversary of Magna Carta : Magna Carta and its Myth

今年は、世界最初の憲法・自由の憲章と称されている1215年発布のマグナ・カルタ（大憲章）の800周年の記念の年に当たります。日本では鎌倉時代の初めに当たる時代の文書が、そう評価されているのは何故でしょうか。当初からだったのでしょうか。それとも後世になってそう評価され出したのでしょうか。だとすると、いつ、誰によって、いかなる経過で？

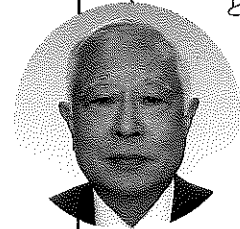
講演者の専攻分野であるイギリス法制史学の立場から、短時間ではありますが、この問題のポイントを話してみようと思います。

司会 会員 佐々木 毅

こやまさだ お 小山貞夫

【講師プロフィール】

東北大学法学部卒業。東北大学教授、法制史学会代表理事等を歴任。イングラッド法制史学を日本に根付かせ、法制史学界の視野を飛躍的に拡大させた。「中国法対日本法」と「西洋法対日本法」という2つの視点から研究を蓄積してきた日本に、「ヨーロッパ大陸対英米法」という第3の視点を付け加え、学界に飛躍的な発展の道を拓いている。



講演2

コムギの母系を尋ねて

Search for material lineage of wheat

多くの植物には、核・葉緑体・ミトコンドリアという3つの細胞小器官（オルガネラ）があり、それぞれは固有のゲノムをもって、遺伝、光合成、呼吸を司っています。葉緑体とミトコンドリアは、バクテリアの仲間が「原始の真核生物」に共生したものと考えられていますが、この共生の過程で、多くの遺伝子を核に盗られてしまいました。平成7年刊行の瀨名秀明さんの「パラサイト・イヴ」という科学小説は、この進化を覆し、ミトコンドリアが核の支配を試みる筋立てになっています。

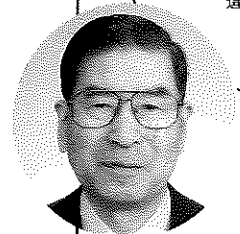
一方、核の遺伝子は両親から、葉緑体とミトコンドリアの遺伝子は片親からだけ、子孫に伝えられます。この遺伝様式の違いを利用すると、コムギの核ゲノムとライムギの葉緑体とミトコンドリアのゲノムをもつ植物ができます。かつて「アフリカン・イヴ」というヒトの「原始の母」が話題になりましたが、今日はこの「細胞質置換」という手法を用いてコムギのイヴを訪ねる旅に皆さんをお誘いします。

司会 会員 入谷 明

つねわき こういちろう 常脇恒一郎

【講師プロフィール】

米国カンザス州立大学大学院博士課程修了。京都大学教授、福井県立大学学長等を歴任。多年にわたり、遺伝学の立場からコムギ属全体の遺伝・進化・育種を三位一体的に研究し、多くの重要な業績を挙げてきた。個々の細胞質ゲノムについて形態や生理的性質に及ぼす影響と葉緑体・ミトコンドリア中のDNAの分子的違いを明らかにし、その結果に基づいて細胞質ゲノムを分類・命名した。



お申込方法（定員150名・先着順） ※事前にお申込が必要です

e-mail、ファックスまたは往復はがきのいずれかの方法で住所、氏名（フリガナ）、電話番号、メールアドレス等の連絡先を記載して、下記の連絡先にお送りください。お席に限りがございますのでお申し込みはお早めをお願いいたします。

◎本院ウェブサイト <http://www.japan-acad.go.jp/> からもお申込できます。

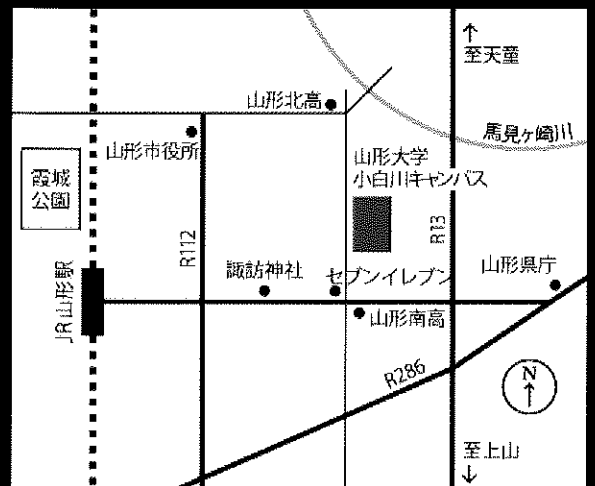
お申込・お問合せ先

日本学士院 公開講演会係 〒110-0007 東京都台東区上野公園7-32

TEL: 03-3822-2101 FAX: 03-3822-2105 e-mail: kouenkai@japan-acad.go.jp

交通・会場ご案内

電車：JR山形駅下車、バスで約10分
※公共交通機関をご利用ください。



平成27年5月12日

山形大学

「社会人力育成山形講座」 平成26年度報告書を作成

文部科学省平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」採択授業“美しい山形を活用した「社会人力育成山形講座」の展開”平成26年度報告書を作成しました。

山形大学が代表校として運営している「社会人力育成山形講座」（山形講座）の平成26年度報告書を作成いたしました。

報告書には、平成26年度開講の各授業科目や会議などの活動報告の他、取り組みの評価、社会人力（社会人として求められる力）が授業でどの程度身についたかの評価も記載しています。本報告書を通して、山形講座の活動についてお読み取り頂ければ幸いです。

＝報告書の概要＝

1. はじめに
2. 平成26年度 社会人力育成山形講座開講授業報告
3. 連携取組評価
4. 共同教育FD研修会
5. 平成26年度社会人力育成山形講座 成果報告フォーラム
6. 山形人材育成委員会
7. 広報及びその他の活動
8. 「大学間連携共同教育推進事業」中間評価
9. 平成27年度の取り組み
10. 代表校・連携校・構成校・連携機関一覧
11. 編集後記

◇社会人力育成山形講座◇

この講座は、文部科学省平成24年度大学間連携共同教育推進事業に山形大学が代表大学として採択された取り組みです。山形県内の多様な教育資源を取り入れながら、国公私立の枠を超えた山形県内の高等教育機関、自治体および経済界が連携した共同教育を立ち上げました。この共同教育プログラムにより学生の社会人力（コミュニケーション力、課題解決力、リーダーシップ）を育成します。

（お問合せ先）

山形大学教育・学生支援部サテライト 尾形・庄司
〒990-0039 山形市香澄町1-3-15山形むらきさわビル1階
Tel 023-641-2681 Fax 023-641-2682
E-mail :sodateru-y@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

募集人員 | 一般市民・大学生・高校生 30名
募集期間 | 平成27年5月7日(木)～5月27日(水)
受講料 | 2,000円(大学生・高校生は無料)
お申し込み方法 | 下の「払込取扱票」に記入の上、受講料の振り込み手続きをしてください。通信欄には、職業、年齢を記入してください。先着順に受け付け、受講票をお送りします。
 なお、大学生・高校生は、メールあるいは電話で、住所、氏名、電話番号、年齢を下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

お問い合わせ先 | 〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学人文学部事務室
 TEL : 023-628-4203 E-mail : jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

会場案内 | 山形大学人文学部1号館3階 301講義室
 ※6月8日(月)のみ、人文学部1号館2階 情報処理実習室にて開講します。
 大学正門を入れて正面の建物です。受付は人文学部玄関にて行います。



その他 | 【公共交通機関ご利用のお願い】
 現在、山形大学小白川キャンパスでは、駐車場が非常に手狭になっております。公開講座当日はできるだけ公共交通機関、または本学シャトルバス(山形駅～小白川循環・料金100円)のご利用をお願いいたします。

シャトルバス運行時刻表
<http://www.yamagata-u.ac.jp/pdf/ekijikoku.pdf> 参照
 なお、山形駅行きの最終便は18:40発となっております。
 また、山交バス県庁前→山形駅前行きの最終便は、南高前バス停19:42発、山形～仙台間高速・都市間バス山形駅着の最終便は、南校前バス停23:24発です。

この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。

ご注意
 この払込書は、機械で処理しますので、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

この場所には、何も記載しないでください。



平成27年度山形大学公開講座 [人文学部]



平成27年度 山形大学公開講座 [人文学部]

世界遺産 ナスカの地上絵

学際的アプローチの成果と展開

平成27年 **6月1日**[月]～**6月15日**[月]

講義時間/毎回 午後6時30分～8時10分 [月・木曜日 計5回]

[場 所] 山形大学人文学部1号館3階 301講義室

※6月8日(月)のみ、人文学部1号館2階 情報処理実習室にて開講します。

[対 象] 一般市民・大学生・高校生 定員30名

[受講料] 一般 2,000円

[募集期間] 平成27年5月7日(木)～5月27日(水)

大学生
高校生
無料

〈お問い合わせ先〉

山形大学小白川キャンパス事務部人文学部事務室

電話 : 023-628-4203

E-mail : jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

第1回 **6/1**[月] ナスカ研究の現状と今後の展望
 人文学部助教 山本 睦

第2回 **6/4**[木] 認知心理学から考えるナスカの地上絵
 人文学部教授 渡邊 洋一

第3回 **6/8**[月] 情報科学からナスカの地上絵を考える
 ～体験学習を通して～
 人文学部教授 本多 薫
 人文学部学術研究員 門間 政亮

第4回 **6/11**[木] ナスカ川と馬見ヶ崎川
 山形大学名誉教授 阿子島 功

第5回 **6/15**[月] 地上絵を作ったのはどんな人々だったのか
 ～遺跡の分布から見るナスカ社会～
 人文学部准教授 松本 雄一



世界遺産 ナスカの地上絵

学際的アプローチの
成果と展開

講座の概要

山形大学人文学部では、平成16年度からユネスコの世界遺産に登録されているナスカの地上絵に関する共同研究を実施しています。文化人類学、認知心理学、情報科学、地理学、考古学などの様々な分野の専門家が協力して、学際的な研究を実施しています。平成24年にはペルー共和国ナスカ市に人文学部附属ナスカ研究所を設立して、ナスカに関する国際的な研究拠点を形成しつつあります。

この講座では、こうした学際的な研究の成果を、それぞれの研究者が自らの体験や分析結果にもとづいて、分かりやすい言葉で語ります。最先端の学術成果に触れ、ナスカの地上絵がどのように解明されつつあるのかを示します。

なお、今回の講座では、ナスカ研究以外で、それぞれの研究者が実施してきた研究内容についても紹介いただき、その経験がナスカ研究にどのように役立っているのかについて積極的に話していただきます。それによって、この学際的な研究の広がりや奥行きを理解していただきたいと思います。

第1回目

6/1
[月]

ナスカ研究の現状と今後の展望

人文学部 助教 **山本 睦**



山形大学人文学部では、平成16年度からナスカの地上絵に関する学際的な研究を継続的に実施してきました。本講座では、まずわれわれのプロジェクトの全体像を示したうえで、これまでの研究成果と今後の展望について、とくに考古学的見地からお話していきたいと思っております。また、現在おこなっている調査に加えて、現地での生活の様子についても紹介いたします。最後に、これまでわたし自身がおこなってきた他地域での考古学調査についても簡単にふれ、それらが今後の調査や研究にどう寄与していくのかという点を示したいと思います。

第2回目

6/4
[木]

認知心理学から考えるナスカの地上絵

人文学部 教授 **渡邊 洋一**



認知心理学は、人間が自分の周囲をどのようにとらえるのかを研究する学問です。そのときに、刺激を受けるだけの単なる観客ではなく、問題を解決するために能動的に考え行動するのが人間の特性であるという観点が非常に重要です。この講座では、そのような観点から、(1) 人が行動する空間としてのナスカ台地と (2) 同じ地上に立って観察する地上絵というふたつの問題をとりあげて認知心理学的考え方を紹介します。

第3回目

6/8
[月]

情報科学からナスカの地上絵を考える ～体験学習を通して～

人文学部 教授 **本多 薫** / 人文学部学術研究員 **門間 政亮**



地上絵が描かれているナスカ台地は、220km (東西20km・南北15km) に及び広大な土地です。この台地に動物、植物、幾何学図形、直線など1000個以上の地上絵が点在していますが、情報科学の視点から地上絵の分布や位置関係等を分析するのに便利な道具が人工衛星の写真です。本講座では、人工衛星の写真を見ながら、地上絵を探したり、どのような場所に描かれているのかなどを確認します。また、代表的な地上絵を実際に描いてみます。このような体験学習を通して、ナスカの地上絵について考えてみたいと思います。



ナスカ川と馬見ヶ崎川

山形大学名誉教授 **阿子島 功**

極乾燥の海岸沙漠のナスカ盆地で千年間も生活が成りたったのはなぜか。それは遠くないアンデス山脈に季節的に降る雨が海岸まで流れてくるためであるが、粗い砂礫層からなるナスカ川の氾濫原では水は浸透して伏流してしまう。そのためプキオ・システムという地下水を利用する独特の水利施設によって農業が営まれたらしい。山形、米沢、東根の扇状地の近世～近代の水・土地利用、モンゴル・中国西部の乾燥地農法と比べながら、ペルー南部海岸の水利用や1万年前以降の古気候変化を復元するためにどのような調査を行ってきたかを紹介したい。

第4回目

6/11
[木]



地上絵を作ったのはどんな人々だったのか ～遺跡の分布から見るナスカ社会～

人文学部 准教授 **松本 雄一**

ナスカの地上絵を作った人々は、どこに住んで、どんな生活をしていたのでしょうか。なかなかイメージがわからないのではないかと思います。地道な考古学調査によって、地上絵が描かれているナスカ台地のすぐ北側に位置するインヘニオ谷には2000年に渡る彼らの生活の痕跡が密集していることが分かりました。生活といっても住居だけではなく、お墓、儀礼場、地上絵、そして何のために作られたのかさっぱりわからない建築など様々です。本講座ではこのような遺跡の分布を分析することで、地上絵を作り、使った人々の実態に迫りたいと思います。

第5回目

6/15
[月]



02	払込取扱票				通常払込料金 加入者負担
口座記号番号					金額
022607	92478	千	百	十	万
					2000
加入者名					料金
国立大学法人山形大学					備考
*「世界遺産ナスカの地上絵～学際的アプローチの成果と展開～」申込書 ※この払込用紙は、1人1枚をご使用ください。(人文学部) ○職業をお書きください。() ○年齢をお書きください。() ○今後の連絡の便宜のためにEメールアドレスをお持ちの方はご記入ください。() ※個人情報の利用について 提出いただいた書類の個人情報は、本公開講座の参加に関する手続きのみに使用し、第三者に開示・提供・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、今後の公開講座やセミナー棟のご案内を本学からお送りする場合がございます。□承諾する □承諾しない (いずれかをチェック願います)					
おとこ (郵便番号)					日
* 依頼人 おなまえ					附
(電話番号)					印
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号仙8982号)					
これより下部には何も記入しないでください。					

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

切り取らないでください。

振替払込請求書兼受領証

口座番号	022607	通常払込 料金加入 者負担
	92478	
加入者名	国立大学法人山形大学	
金額	千	百
	十	万
	2	000
おなまえ	様	
ご依頼人	様	
料金	日 附 印	
備考		

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

平成27年5月12日
山形大学

「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンス）」

平成27年度第1回・採択結果

JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンス）」に山形大学から2件採択されました。

1. 事業概要

(1) 事業の目的

アジア諸国と日本の青少年が科学技術分野において交流を深めることは極めて重要なこととして、JST（「国立研究開発法人科学技術振興機構」）が平成26年度から「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」（通称「さくらサイエンスプラン」）を開始した。

この事業は、優秀なアジアの青少年が日本を短期に訪問し、日本の青少年と科学技術分野で交流を深めるとともに、日本の最先端の科学技術への関心を高め、日本の大学や研究機関、企業が必要とする海外からの優秀な人材の育成を進めることを目的としている。

(2) 招へい対象国・地域

ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、中華人民共和国、フィリピン共和国、インド共和国、インドネシア共和国、大韓民国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、モンゴル国、ミャンマー連邦共和国、シンガポール共和国、台湾、タイ王国、ベトナム社会主義共和国以上の15の国・地域

(3) 招へい対象者

申請時に40歳以下の高校生、大学生、大学院生、ポストドクターなど

2. 採択状況

山形大学は、標記事業の平成27年度第1回募集（27年1月）に3件申請し、2件が採択（事業全体（第1回公募分）としては、270件の応募中156件が採択）

（採択内容）

①「蔵王でミニワールド体験～災害と技術～」

○大学間協定を結んでいるベトナム、中国、インドネシア、タイの学生（20名程度）を招へいし、山形大学学生と山形において共同合宿を行う。東日本大震災を題材として、災害・復興・防災について、科学技術の観点から防災意識を涵養し、エネルギー問題について考える。

○山形大学が有する研究資源（有機EL）の仕組みを知り、製造過程を視察する。震災を振り返り、科学技術がどのように復興やその後の対策に関わっているのかを学ぶ。被災地を訪問し、日本の災害対策技術や復興中のまちづくりのシステムを学ぶ。

（8月下旬に開催予定）

②「日本と東アジアの若手研究者における高分子レオロジー・成形加工研究会議」

○プラスチック製品は、素材を成形加工して作られており、その過程を制御するのがレオロジーである。この研究は、国ごとに特色があるため、本プログラムにより研究者同士の交流を深め今後の共同研究の推進を図る。

○工学部の最先端研究施設を見学し、山形大学の研究を紹介する。日本と東アジアの若手研究者

による研究発表・講演・討論といった内容のシンポジウムを開催し、お互いの研究への理解を深める。

3. その他

日本・アジア青少年サイエンス交流事業は、年3回の公募事業である（概ね1月、5月、9月に公募開始）

（お問合せ先）

山形大学教育・学生支援部国際交流課 長南
Tel 023-628-4118 Fax 023-628-4051
E-mail :rgkacho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp